

# 絵本を読もう 改めて

子どもの頃から好きだった絵本に、大人の視点で再び向き合う女性たちが活動を実らせた。江戸川区の市民グループと、都内在住の祖母、娘、孫3世代の家族がそれぞれ本を出した。



江戸川子どもおんぶずの青木さん(左から2人目)らメンバーたち

## 「素敵なおとな」53冊紹介 江戸川の団体

市民グループは「江戸川子どもおんぶず」。子どもに寄り添う、すてきな大人に注目して絵本53冊を紹介する「絵本の中の素敵なおとなたち」を発行し



53冊を紹介する「絵本の中の素敵なおとなたち」

## 子らに向き合い 寄り添うヒント

た。子どもの人権にかかわる活動を続けてきた同団体が昨年末に15周年を迎え、記念事業として作成した。

青木沙織事務局長(38)は「大人として暮らしの中でどう子どもたちに向き合い、寄り添えばいいか、ずっと考えてきた。メンバーには絵本好きが多く、登場人物にヒントがあるかと思いついた」と話す。

中心メンバー4人が、図書館で借りたり、書店で買い求めたりして候補を選定しては、意見交換を重ねた。数百冊の中から最終的に53作に絞った。

例えば「ほぐのおじさん」の象のおじさん、「ムーミン谷の冬」のおしゃまんさん、「おぼあちゃんのおかいマント」の米国の都会で一人暮らしをするオシャレなおばあちゃん……。

愛情を注ぐ保護者として、何かを伝えようとする賢者として、子どもにとっての同志としてなど、様々なタイプの大人が登場する。お母さんやおじいちゃんが多いが、中には「ゆきだるま」も。

「子ども向けの絵本を、魅力的な大人に注目して読み返すと、味わいが深まると思う」と青木さん。

オールカラーA5判68ページ、500円。問い合わせは、江戸川子どもおんぶず(ファクス03・3654・9188、メール [eko@bmn.fifty.com](mailto:eko@bmn.fifty.com))へ。